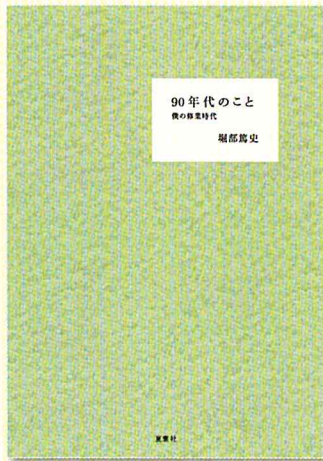


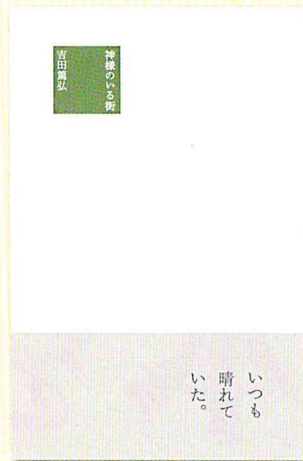
夏葉社の本(一部)



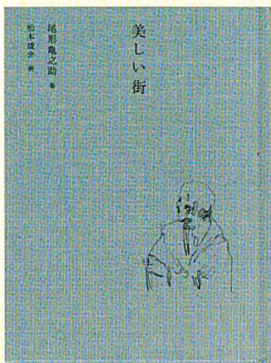
『90年代のこと』



『山の上の家』



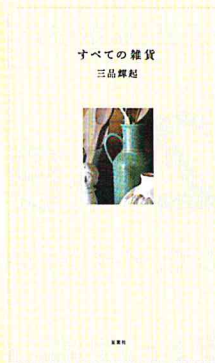
『神様のいる街』



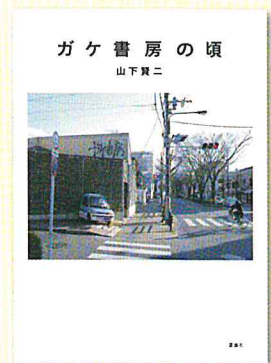
『美しい街』



『ふたりっ子バンザイ』



『すべての雑貨』



『ガケ書房の頃』

※イベント当日に、夏葉社の本の販売をいたします。

会場のご案内



会場：大川美術館 レクチャールーム

公益財団法人大川美術館は、桐生市出身の大川栄二が約40年にわたって収集した日本・海外の作家のコレクションを中心に、市の支援を得て、平成元年に市内を一望できる水道山の中腹に開館いたしました。

夏葉社

1976年生まれの大島潤一郎さんが営む、吉祥寺のひとり出版社。「何度も、読み返される本を」をスローガンに掲げ、長く絶版になっていた本や、かつて自費出版で刊行された幻の作品の復刊を中心に、これまで30冊以上の本を刊行してきた。近年は復刊以外に、『冬の本』『本屋図鑑』など、独自の視点で編集した本も手がけている。



島田潤一郎(しまだじゅんいちろう)

1976年、高知県生まれ。東京育ち。日本大学商学部会計学科卒業。アルバイトや派遣社員をしながら、ヨーロッパとアフリカを旅する。小説家を目指していたが挫折。2009年9月に33歳で夏葉社を起業。